

火山災害で避難するということ ～その判断の背景にあるものは～

一般社団法人減災・復興支援機構

宮下加奈

三宅島の噴火

- ・過去1000年で15回（記録のあるもの）の噴火
- ・昭和15年から平成12年の60年間でも4回
 - 20年に一度の周期で噴火する
 - 一生に一度以上、噴火で被災する可能性大
- ・1983年、2000年の2回被災
 - 身近に4度の噴火経験者もいる
 - 噴火に関する「生きた経験」の伝承
 - 学校教育だけでなく、身近な人たちからの口伝え

被害の形態

- ・2000年までの噴火は・・・
 - 割れ目噴火により「大量の溶岩流」流出
 - 大きな被害が出ても短期間で終息、地域も限定的
- ・2000年の噴火は・・・
 - 度重なる噴火、降灰、降雨時の泥流の危険性
 - 火砕流の発生を機に全島民**島外避難**
- ・2000年9月中頃から、火山性有毒ガスが発生
 - 避難生活は短い人で4年5ヶ月

1983年噴火

- 15:23頃 噴火発生
- 1540 同報無線により「噴火発生」を放送
「三宅村災害対策本部」設置
村営バスを阿古地区に派遣決定
- 15:50 同報無線により阿古地区住民に対する避難を勧告
- 16:17 最初の村営バス 阿古地区へ到着1160人の住民が避難
- 17:00過ぎ 最後のバスが阿古地区を脱出

* 1983年の人口 約4,400人（うち阿古地区人口約1,350人）

* 住宅の埋没・焼失は約400棟

* 人的被害なし

旧阿古小中学校付近



2000年噴火

- 6/26 緊急火山情報→島内の避難所へ
- 6/29 気象庁の「安全宣言」を受け避難解除へ
→ライフラインが復旧していないまま自宅へ
- 7月 噴火活動再活発化
- 7/ 8 小規模噴火
- 7/14 北東部に降灰
- 7/26 降雨による土砂災害発生
- 8/10 小規模噴火 → 大量の降灰
- 8/18 大規模噴火(2000年噴火最大規模)
→ 島内全域に噴石と大量の降灰

2000年噴火

- 8/24 在宅高齢者の島外避難開始
→ (8月上旬頃から自主避難した人も)
- 8/29 大規模噴火・低温火砕流の発生、小中高校生 島外避難決断
- 8/30 小中高校生 – 秋川高校 (東京都あきる野市) へ避難
- 9/ 1 全島民の島外避難が決定
- 9/ 2 全島避難開始 (9月4日に完了)
* 数日後には公営住宅へ分散避難 (一部の縁故避難者も公営住宅へ)
- 9月以降 高濃度の二酸化硫黄放出を観測

長期に及ぶ広域避難が始まる

避難の決断

- ◆ 自分の身の危険を感じたとき→命を守る行動
- ◆ 危険な現象が目に見えたとき

吹き上がる火柱を見た

火山灰が降ってきた

- ◆ 避難の指示が出たとき

防災行政無線の放送を聞いた

近隣の人の声掛け

→ 現象を見て、指示を受けてから避難して間に合うのか？

避難の課題

- 被災地の情報不足
- **生活再建・自立支援 = 生活・生業支援**

※先の見えない生活

- 長期避難は生業再開を阻む大きな要因
- 生活のためには働かなければならない
→ 島での生活に戻れるのか？
- 還りたい気持ち、故郷への思いをつなげておくには

長期広域避難の課題

- 暮らし（公営住宅への入居） → 取り急ぎ空き公営住宅へ
コミュニティ単位ではない
年齢、介助の要・不要、土地勘の有無・・・配慮なし
過去の教訓が活かされない応急的対応のみ

コミュニティは完全に崩壊

- 火山ガスの発生で無人となり、島の様子が分からないこと
- 避難の終わりが不明のため、経済的・肉体的体力を維持することが難しい
- 初めての一時帰宅は 2001年9月→避難から1年後

残してきた家屋や私有財産の保全が難しい

長期広域避難を支える

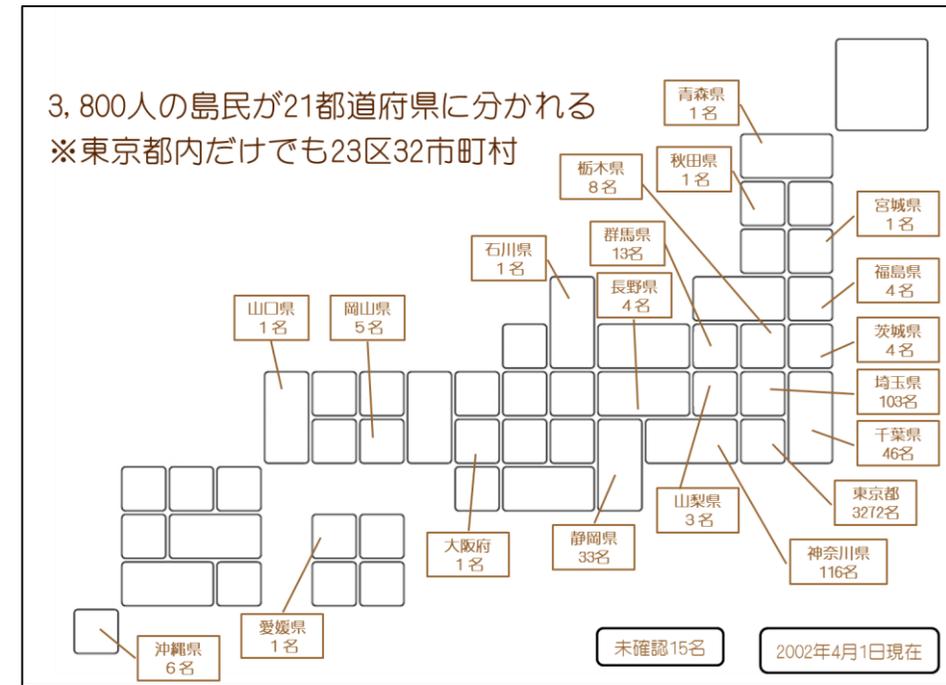
○ 初めての長期避難

- ・ 新コミュニティの構築
- ・ 既存コミュニティの維持
- ・ 避難解除後のコミュニティの再構築

→ 避難地域ごとに島民会を結成
 地域島民会代表者会議による情報交換
 定期的な「ふれあい集会の開催」

情報連絡員制度、行政職員派遣業務、高齢者支援センターの運営、
 島民連絡会活動資金支援、島民連絡会会議への行政職員派遣、
 住民説明会の開催、災害保護事業、緊急雇用事業の活用 など

○ 住民と三宅村、支援団体で知恵を出し合い活動

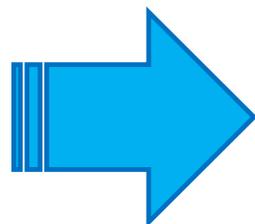


帰還のファクター

衣

食

住



医療

職業

安心・安全な地域と

住居

避難するということ

- 身の安全を守るため避難する
避難中の生活、学業、事業の維持、
被災地の家のメンテナンス、財産の保全策は？
- 帰島後の生活への不安
生活再建、事業、学業の再開
過疎高齢化に拍車がかかる→復興は誰が？

避難当初から、帰島後の生活を視野に入れた支援策が必要
そのための情報発信のあり方が課題となった2000年噴火

**2000年噴火で全島を経験した今・・・
同じ条件での全島避難に同意できるか？**